

今年も枇杷が実りました

2014年6月に患者さんと一緒に食べた淡路島の枇杷の種から始まり、病院敷地内のガーデンに枇杷の種から育てた枇杷の木を育てています。

年月をかけ大きな木になり、毎年枇杷が収穫できるようになりました。一粒の種からたくさんの枇杷が実り、毎年の楽しみとなっています。今年も美味しく大きく育つようにと摘果し、袋で保護して無事に収穫し、桐原師長と一緒に各部屋をまわって皆さまに振る舞うことができました。今年の枇杷は今までより完熟し、ほんのり甘酸っぱく美味しかったです。

92歳の方が「まあ～枇杷！今年の初物！昔から初物を食べると寿命が七五日伸びるって言いますよね」と喜んでくださいました。「初物七十五日」という言葉を知っていますか？昔から初物は縁起が良く、食べると寿命が75日延びるといわれてきました。



栄養科の協力で調理師(元パティシエ)の清水さんがオリジナルレシピを考案してくれた、無農薬栽培枇杷を使った“ピューレとゼリー2層仕立て”は、患者さんからも大好評でした！



アオムシ

作: 佐藤 迪代さん

(7F 緩和ケア病棟に入院中に青虫に出会った患者さんがイラストと素敵な物語(「セロ弾きのゴーシュ」宮沢賢治から引用)を書いてくださいました。)



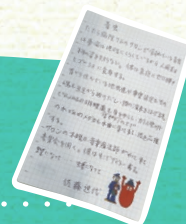
たたら病院7Fのサロンで飼われている青虫は昼間は地味にくらしているから人間共は本当の姿を知らない。彼は真夜中にセロ弾きのゴーシュに変身する。

昔から住んでいる地虫達や甲冑具足もその魂も具足から抜けだし、彼の演奏をはげます。

胡蝶蘭はピアノの上で身をゆらし、ガラス壁の外の水がめのメダカも水面に集って来て、彼を応援する。

サロンの木曜日、音楽療法士がやって来て音楽会を開く。彼はそこでデビューする。蝶になって…蝶になって

※患者さんのご希望があり、許可をいただき掲載しています。



田島まり江医師、ただいま2ヶ月間の研修中です



緩和ケア病棟で研修中の
田島まり江医師

はじめまして。

このたび、たたらリハビリテーション病院の緩和ケア病棟で研修をさせていただくことになりました、医師の田島まり江と申します。

私は現在、総合的に診ることができる医師を目指して日々学びを重ねております。**身体だけでなく、こころや暮らしにも寄り添える医療を大切にしたいと考え、この緩和ケア病棟での研修をとても貴重な機会と感じています。**

当院の緩和ケア病棟は、スタッフが患者様やご家族のお気持ちに寄り添い、できる限り「お家のような安心感」の中で過ごしていただけるよう、日々工夫を重ねています。患者様やご家族が寛ぐことができるようなソファやお部屋を準備していたり、コーヒーが好きな

患者様のために、ベッドのそばでミルを使って豆から挽き、淹れたての一杯を一緒に楽しんだり、一時外出や外泊のご希望にもできる限り応えようとするその姿勢に、深く心を打たれました。もしも自分が患者になったとしたら、ぜひこの病棟に入院したい、そう素直に思えるほど、あたたかいハートを持ったスタッフでいっぱいの優しい空間です。

この病棟での日々を通して、医師としてだけでなく、一人の人間としても学ばせていただくことがたくさんあります。私自身は二児の母であり、育児と仕事の両立に日々奮闘していますが、多くの方に支えられながら、一歩ずつ成長を重ねています。**病棟では、患者様とご家族にとって、少しでも安心して頼っていただける存在になれるよう心がけてまいります。**どうぞよろしくお願いいたします。

緩和ケア医師の平田^{わたる}済です。早いもので、緩和ケア病棟を開設して22年目になります。

現在、2025年4月より赴任された清水祐紀^{わたる}子先生と2人で21名の入院患者さん、入院面談、定期通院患者さん、リンパ浮腫通院患者さん、在宅患者さんを診ています。

田島先生のように、専攻医の方が年に数名緩和ケア研修に来られます。オピオイドの処方だけでなく、緩和ケアの良さ、多職種協働、家族ケア、コミュニケーションなどを学んでいただけたら嬉しい限りです。

患者さんやご家族が「良い人生だった、一生懸命生きてきた」と思ってもらえるようなケアを心がけ、そのことによってスタッフがケアされるという経験も見ても感じてほしいと思います。

自分も、緩和ケア病棟で年を重ね、みんなに優しく時に厳しく励まされ、充実した日々を過ごしています。まだまだ学ぶことが多い毎日です。



田島まり江医師、
清水祐紀^{わたる}子医師、平田済医師